

ゲッティンゲン大学で開催された HeKKSaGOon 日独 6 大学学長会議に参加しました (2013/9/12-13)

場所：University of Göttingen (Germany)

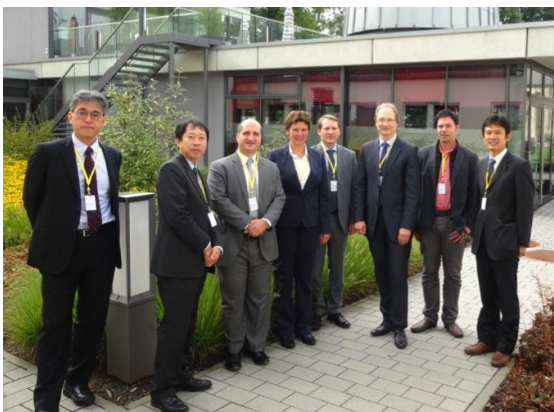
テーマ：Challenges and Perspectives in Promoting Young Researchers

HeKKSaGOon (ヘキサゴン) は、日本とドイツの主要大学（東北大学、京都大学、大阪大学、ハイデルベルグ大学、カールスルーエ工科大学、ゲッティンゲン大学）の研究者及び学生の交流、共同研究の推進、サマースクール等の開催など、日独大学間の交流を推進することを目的に、2010 年に結成された二国間型のコンソーシアムです。平成 25 年 9 月 12 日から 13 日の二日間にわたり、第 3 回日独 6 大学学長会議がドイツのゲッティンゲン大学で開催され、災害科学国際研究所からは寺田賢二郎教授、村尾修教授、姥浦道生准教授が参加しました。

参加した Disaster Prevention: Scientific and Technological Issues のセッションでは、カザイ博士 (KIT) による進行のもと、以下のテーマで発表し、ドイツ側参加者とともに活発な議論が交わされ、将来的な共同研究の可能性などを探りつつ、交流を深めました (写真 1)。

Simulation, Visualization and Information Technologies to Disaster Mitigation (K. Terada)
Land Use Plan for Reconstruction after the Great East Japan Earthquake and its Planning Process (M. Ubaura)
Transition of Housing Location in the 20th Century in Damaged Areas due to the Great East Japan Earthquake and Tsunami (O. Murao)
Corporate Risk Management (J. Geldermann)
Shelter Modeling for Disasters (B. Khazai)
Hazard and Risks by meteorites (M. Trieloff)

閉会式では学長が一同に会し、総括しましたが、その際に次回 (2015 年) は東北大学 (仙台) で開催されることが宣言されました。



セッション集合写真



学長が一同に会しての閉会式